

IV. 市区町村別の動向

1. 東京圏の住宅地

※（ ）は前年変動率

埼玉 県	<ul style="list-style-type: none"> ○ さいたま市では、0.3%上昇(1.9%上昇)。全 10 区のうち、6 区で上昇幅が縮小、4 区で上昇から下落となった。 ○ 東京都に隣接・近接する川口市、蕨市、戸田市など及び白岡市では、東京都心への交通利便性を背景に上昇が続いているが上昇幅が縮小した。 ○ 川越市、越谷市、所沢市など 20 市町では、上昇又は横ばいから下落に転じた。 ○ 東京圏外周部では、下落が続いている市町が多く見られる。 	東京 都	<ul style="list-style-type: none"> とから、また、区部都心部は環境と利便性を兼ね備えていることから、相対的に高い上昇率を示している。 ○ 多摩地域では、6 市で上昇が続いているが上昇幅が縮小、18 市町で上昇から下落、1 市で横ばいから下落となり、3 市町で下落が継続した。 ・ 日野市では、土砂災害リスクが周知され、取引水準が低下し、地価が大きく下落した地点が見られる。
千葉 県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 千葉市では、0.2%上昇(0.8%上昇)。全 6 区のうち、2 区で上昇幅が縮小、1 区で上昇から横ばい、2 区で上昇から下落、1 区で横ばいから下落となった。 ○ 東京都に隣接・近接する松戸市、習志野市、浦安市などで上昇が続いているが上昇幅が縮小し、市川市、船橋市では、上昇から下落に転じた。 ○ 房総地域では、木更津市、市原市、君津市、袖ヶ浦市で上昇が続いているが上昇幅が縮小した。 ○ 東京圏外周部では、成田国際空港の関係者による需要が堅調な空港周辺を除き、下落が続いている市町が見られ、下落幅が拡大した。 	神奈 川県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 横浜市では、0.4%下落(1.1%上昇)。全 18 区のうち、7 区で上昇幅が縮小、1 区で上昇から横ばい、8 区で上昇から下落、2 区で横ばいから下落となった。 ○ 川崎市では、0.1%下落(1.7%上昇)。全 7 区のうち、4 区で上昇幅が縮小、2 区で上昇から下落となり、1 区で下落が継続した。 ○ 相模原市では、0.1%下落(1.0%上昇)。全 3 区のうち、1 区で上昇幅が縮小、2 区で上昇から下落となった。 ○ その他の市町では、3 市が上昇から横ばい、2 市が上昇から下落となった。下落が続いている市町では下落幅が拡大した市町も見られる。
東京 都	<ul style="list-style-type: none"> ○ 23 区全体では、1.4%上昇(4.6%上昇)。全ての区で上昇幅が縮小した。 ・ 上昇幅が大きい順に、新宿区 2.6%上昇(6.1%上昇)、荒川区 2.6%上昇(8.6%上昇)、文京区 2.2%上昇(6.6%上昇)、北区 2.2%上昇(6.8%上昇)、渋谷区 2.1%上昇(5.3%上昇)となっている。区部北東部は都心への交通利便性が高い一方で価格水準が相対的に低いこ 	茨 城 県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 圏域内の市町では、3 市で上昇から下落となり、1 町で横ばいが、6 市町で下落が継続した。

市区町村別の状況（東京圏・住宅地）

